

第2回協議会だより 《中方部》



—令和5年10月26日（木）15:00～16:40 音楽・文化交流館 大ホール—

【実践発表】 ナーサリールームまんまびあ本園

遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～



ナーサリールームまんまびあ本園では、保育理念に「身を育む」「心を育む」「知を育む」を掲げ、子どもたちと保護者の理想郷を目指して保育を進めています。

その保育の一環として、今回の発表にありました、「プログラミング的思考」の育成に力を入れています。積み木やブロック等を使った遊びの中では、ゴールまでのルートがつながるように並べる過程で「うまくつながるにはどうしたらよいか」「つながらないのはなぜか」と問うたり、はじめに積んである形と同じ形になるように「何個使っているか」「何段になっているか」とクイズにしたりしながら、子どもたちの論理的思考と問題解決能力を養えるよう思考の場を充実させています。

また、友だちとの協力やコミュニケーションを大切に、小麦粉粘土を作る過程では、何を材料にしてどのように、どの順序で作るのか、みんなで話し合いながら考える場を設け、互いに思考を深め合える場を大切にしています。

日常の活動に、「プログラミング的思考」の場を位置づけ充実させることで、子どもたちは、楽しく思考を深めながら成長していく様子を感じられた内容でした。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ ナーサリールームまんまびあ本園の発表について

- ・プログラミング的な学習が苦手な子どもにはヒントカードや先生方の手助けなどが用意され、最後まで意欲的に取り組める工夫がされていた。また、小麦粘土を作る活動では生活経験に関連した内容で、いきいきと取り組んでいました。
- ・ICTの積み重ねができていて苦手意識が和らぐと思う。プログラミング思考はICT以外の活動でも育てることができると思うので意識していきたい。

☆ テーマ「遊びを通して育まれる資質・能力について」～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～について

- ・「遊び」の中に複数の項目が入るようにしているが、1ヵ月の中で10の項目が満遍なく入るようにしている。このことは保育する側の意識付けにもなっている。
- ・幼保ではアプローチカリキュラムの内容はいろいろであるが、小学校のスタートカリキュラムと連携を図っていく必要がある。

《参加者からのアンケートから》

- ・いくつかのプログラミングの紹介がありましたが、どのプログラミングも子どもたちが考え、試行錯誤をする場が設定されていてすばらしいと思いました。友達と一緒に考えることで協同性も育つと思いました。（こども園：参加者）
- ・協議会に参加して、幼保での具体的な実践や取り組みを知ることができました。小学校に入ってきたときに幼保で学んできたことをより高められるような工夫が必要と思いました。（小学校：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。